

宮崎県における飼料作物の生産利用技術の実態

第4報 刈取り熟期と飼料成分及び pH

森 徹・*名和長園 (宮崎県畜産試験場・*宮崎県営農指導課)

Toru MORI and Nagakuni NAWA : Culture and Utilization of Forage Crops in Miyazaki Prefecture

4. A Survey of Harvest Stage and Feeding Value and pH of Forage Crops

宮崎県の自給飼料分析指導センターの分析指導結果を基に、飼料作物の刈取り熟期、飼料成分、サイレージの pH について実態調査を行った。

1. 調査方法

自給飼料分析指導センターにおいて、1985年6月から'90年3月までに分析指導を行った飼料作物のうち、イタリアンライグラス、トウモロコシ、ソルガムの計5,746件について調査した。このうち、飼料成分については、1989年4月から'90年3月までに、近赤外定量分析計により分析を行った飼料作物227件について調査した。

2. 結果及び考察

1) 飼料作物の刈取り熟期

イタリアンライグラスでは、サイレージ利用が最も多いにもかかわらず、出穂期が5割程度で推移しており、開花期が若干の減少傾向を示したものの、結実期が増加傾向にあり、刈遅れがやや多い状況にある。

トウモロコシでは、黄熟期の減少が顕著であり、逆に、乳熟期及び糊熟期の割合が増加している。この原因の1つとして、天候の影響、特に、台風対策による早刈りが大きく影響していると考えられた。

ソルガムについては、刈取り熟期の割合が年度によって大きく変動しており、特に、乳熟期以前において顕著であった。ソルガムの利用形態はサイレージが最も多いにもかかわらず、1989年における熟期の割合は、乳熟期が2割以下であるのに対し、水熟期が5割以上を占めており、早刈りの傾向にあることが示された。このことから、今後、さらに適期刈取りを励行する必要がある。

2) 飼料成分

イタリアンライグラス、トウモロコシ、ソルガムそれぞれのサイレージの TDN (乾物中) の分布は第1図のとおりである。

イタリアンライグラスでは、61.1~65%の区分に、おおむね均等に分布している。1987年版の日本標準飼料成分表の値 (以下「標準値」と略す。) との比較によると、EE、NFE が標準値よりも若干高めにあったが、CP、CF が低い傾向にあったことから、TDN は標準値66.6%よりも低いレベルでの分布となった。

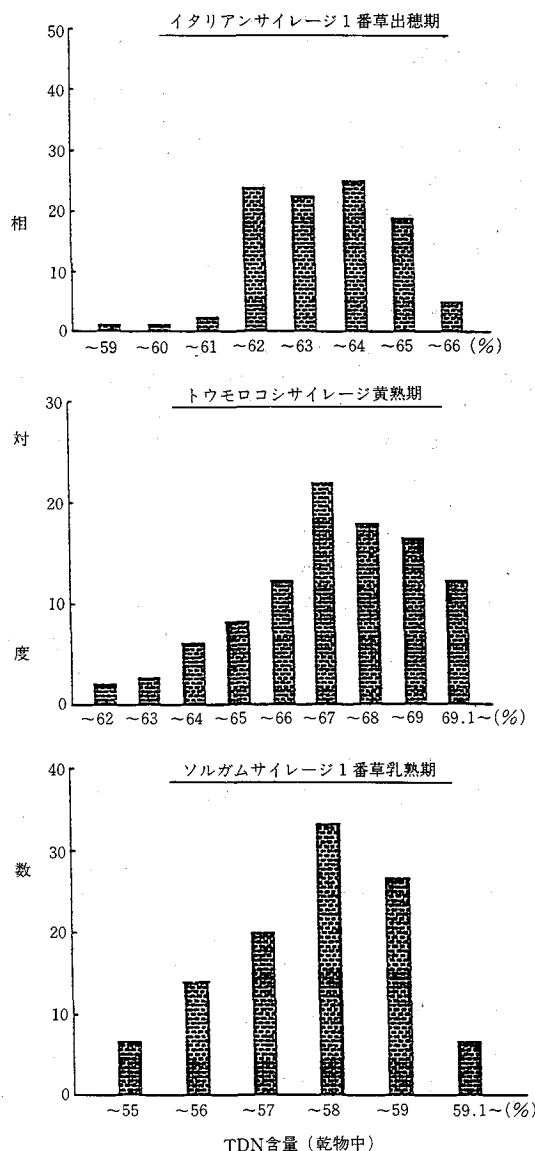
次に、トウモロコシでは、CF が標準値よりも若干低い傾向にあったものの、CP、EE、NFE において高い傾向にあり、第1図に示したとおり、TDN は、標準値65.9%よりも高い区分に多く分布した。

ソルガムサイレージでは、CF が標準値よりも低い傾向を示したものの、CP、EE、NFE については、いずれも標準値に近いレベルにあり、TDN は、標準値57.5%に

近いレベルでの分布を示した。

3) サイレージの pH

トウモロコシ及びソルガムにおいて、良好な状態が維持されている。イタリアンライグラスについては、pH が高いものの割合がやや多い状況にはあるが、年々、改善されてきていることが示された。



第1図 飼料作物の TDN 含量